

浄興寺 大門通り 界限



大門通り入口の碑

1 浄興寺大門通り

浄興寺の門前通りは「浄興寺大門通り」と呼ばれ、寛文年間(1665年頃)から明治期までは、山門から現在の表寺町通りまでの区間でしたが、その後、時代とともに東へ伸び、現在では、高田本町通りまでの約600mの区間のことをいいます。本町通り(かつての北国街道)からの入口には碑が立っており、参勤交代の諸大名がこの場所でおごから降りて浄興寺を拜んだと言われています。

浄興寺山門



ポケットパーク

「浄興寺大門通りまちづくり協議会」では、参道である大門通りを「祈りの道」と呼んで親しみ、ポケットパークの整備や「花の小径」事業に取り組んでいます。



大根炊き

浄興寺の大根炊きはしばらく途絶えていましたが、「浄興寺大門通りまちづくり協議会」が、浄興寺大門通りの認知度アップと門前通りらしさを取り戻そうと、平成17年に復活しました。毎年、11月3日に開催され、準備や配膳には地元の高校生や児童も参加して盛り上げています。



2 長養館

店の由来は、江戸時代に高田城下の田端町(現在の仲町3丁目付近)に店を構えた「吉原屋」にさかのぼり、明治25年(1892)に現在地(寺町2丁目)に移転し、店名を「長養館」に改称しました。高田駅から徒歩5分の街中にありながら、1200坪の落ち着いた空間に、畳廊下の木造数寄屋と日本庭園を配し、越後の食文化に触れながら、ゆったりと料理を楽しむことができます。

所 寺町2丁目1-8
☎ 025-523-5481



北門

国登録有形文化財

3 百年料亭 宇喜世

創業を仲町が田端町と呼ばれていた江戸時代末期にまで遡るという、由緒ある書院造の荘厳な建物が自慢の老舗料亭で、北門をはじめ、東門、建物が国登録有形文化財となっています。四季折々の風情を感じながら、伝統ある料亭の味をゆっくりと堪能することができます。

所 仲町3丁目5-4
☎ 025-524-2217



4 日枝神社

慶長19年(1614)に松平忠輝が高田に築城の際、表野(直江津の川東)から寺町3丁目の慈眼寺の辺りに移り、寛文5年(1665)の大地震で社殿が倒壊したため、現在の地に移りました。高田城鎮護及び城下町の産土神として奉斎された神社で、「お山王さん」と親しまれています。

所 寺町3丁目1-19

コラム 田端町

江戸時代、現在の仲町3丁目のあたりは「田端町」と呼ばれていました。田端町は、もとは福島城(直江津の港町付近にあった高田城以前の城)の城下町にあり、高田築城に伴って移転して来たこととされます。田端町には魚の販売特権が与えられ、浜方からの魚は田端町の問屋に運ばれ、町は城下町の台所として、大いに栄えました。このような歴史から、仲町には、魚を扱う割烹料亭、料理屋が多く生まれたのです。



田端町跡碑



田端稲荷神社